

野良猫

三年 佐藤かれん

去年の十一月頃、両親の営む生活雑貨店で三匹の子猫が見つかりました。その前から、二匹の成猫が毎日のように店の近隣を訪れていたため、彼らの子供だと理解することは容易でした。三匹の子猫のうち一匹は両親の知人に引きとってもらい、残された二匹の子猫とその母猫は、店の裏にある細道で暮らすようになりました。両親から毎日決まった時間帯に餌と水をもたらったおかげか、子猫たちは立派に成長しました。私は休日に店を訪れた際に猫を見る程度だったのですが、めざましい成長や見た目の愛らしさから愛着をおぼえました。

ある日の夜、成長した猫のうちの一匹が車に轢かれて死んでしまいました。それを母から聞いたときはひどく悲しい気分になり、また、残されたきょうだいの猫のことを心配に思いました。とくに、とりわけ猫のことを可愛がっていた母は家族の誰よりも悲しみました。家族が残されたきょうだいの猫を保護しようと決意したのはその日でした。野良猫の平均寿命は約三年から五年らしく、保護しないままでしたら、同じように亡くなってしまおうと考えたのです。

餌をやって手懐けることで保護するタイミングを窺い、両親はついに猫を保護することに成功しました。市内の動物病院へ連れていき、数週間ゲージの中で療養させた後、病院の医師からの了承を得てゲージから解放しました。猫はすっかり体調が良くなり、体重も増え、傷んでいた毛並みも柔らかくなりました。病気のせいで汚れていた目のまわりや耳も、今では見ちがえるほど綺麗になっています。

私は、猫を保護し、面倒をみる決断をした両親を優しく思いました。もし私が両親の立場なら、そんなことはできないと感じたからです。

猫が車に轢かれて亡くなってしまった日、私は「野良猫はそうなるものだ。」と納得しかけたけれど、保護して健康になった猫を見ると、そうではないと感じます。人間の勝手で動物が苦しむのはあってはならないことだし、誰かの尻ぬぐいだとしても、動物のためにやれることは積極的にやるべきだと私は思います。

私たちが野良猫のためにできることは、野良猫に不妊去勢手術を行い、元いた場所にもどすことです。難易度は高いですが、もしやらなければならない状況になったら、野良猫のために行動をおこしたいと思います。